

大木伸銅

生産、超過達成ペース

上期7%増 通期計画3.3万トン

大手黄銅棒メーカーの大木伸銅工業（本社＝東京都板橋区、大木宗治社長）は、今期（2014年12月期）の生産量が前年を上回るペースで推移しており、通期計画の3万3000トン（月平均2750トン、リン青銅含む）を達成しそうだ。一方で、コスト増や春先の相場下落により、営業利益は当初見込んでいた通り前期の12億円を下回る公算が大きい。

前期は建築関連需要の復調を受けて特に夏場以降は生産が伸び、年間生産量が3万2900トンと2年ぶりに3万トンを超えた。今期も

営業益は前期比下振れ

需要環境は底堅いとみて、度と計画していたが、上期（1～6月期）実績は前年同期を7%上回った。溶解炉の定修に伴う設備トラブルはあった

い」と語る。建築関連のほか、自動車部品向けも好調さを維持しており、年間でも生産計画の達成を見込む。ただ、生産量の増加に反して利益面は伸びていない。電気料金などのエネルギーコストが、通常の値上がりに加えて契約ワット数の変更などから増加。また、年初にトン82万円だった銅建値が3月に70万円まで急落するなど前半の相場地合いの悪さも響いた。今期の営業利益目標は8億5000万円としていたが、これは達成できるとみている。

ものの、ピレットの在庫が十分あったため製品の出荷に大きな影響は出なかった。

大木社長は下期の黄銅棒需要について、「足元の（国内生産量）月間1万6000台のレベルを上回っていくことはない」とみているが、少なくとも年内に落ちていくとも思わな